

私の視点

# 非正規問題を考える

北海学園大学経済学部・准教授 川村 雅則

紙幅の都合上、非正規労働者の生活の困難や政策課題等については別の機会にゆずり、代わりに、この問題を調査している中で感じている、組

合関係者と率直に考えたいことについて述べる。すなわちそれは、総じて、もはや補助的業務とはいえない基幹業務に従事し、働き方も短時間労働とはいえない、にもかかわらず、賃金面では説明困難な格差が放置され、昇給等があるわけでもなく、むしろ有期雇用ゆえに不安を抱えて働く非正規の少ない部分が、そ

の不満や怨嗟を、優遇されている(ように彼らには見える)正規・労働組合に向けているという事実について、である。言うまでもなく、正規は正規で、業務過多のしんどい状況にある。また、基本的には労使間の問題を正規と非正規の「労対立」にすり替えるつもりも全くない。とはいえ、正規の一時金が非正規の年収とほとんど変わらないほどの圧倒的格差に何らの違和感をもつこともなく、非正規も自らの労働条件を主体的に勝ち取るよう言い放つとき、雇用不安とゆとりなき生活に追われて働く彼らに対する想像の欠落はないだろうか。繰り返しになるが、「労対立」をおおるつもりはない。ただ、非正規がかくも不条理な状況におかれていることに、正規・労働組合がどこまで本気で怒っているのか、問われている気がしてならないのである。